

梅雨に入り、雨の降る日が多くなりました。子どもたちは、晴れ間をみて園庭へ行き、芝が濡れていても、裸足になりかけまわっています！大人は「やめて〜💧」と思うことも、子どもたちにとっては楽しいあそびです。保育園では危険がない限り、できるだけ“やめて”の言葉を掛けずに、過ごせるようにしています。やりたいことを思う存分楽しんでほしいと思います。

夏は迷ったら水遊び！



たらいにごく浅く水を張るだけで、立派なマイプールのできあがり。ペットボトルやいろいろな大きさのカップ、おたまやジョウゴなどがあると、あそびがより楽しくなります。

ヒント

「たらい」で水あそび

水あそびは夏のあそびの定番です。公園の水あそび場やプール、川などももちろんいいですが、小さなお子さんがいる家庭なら、大きな洗面器やたらいをひとつ準備しておくことをおすすめします。子どもを外に連れ出せないほどの猛暑の日、でも部屋にはあきあき、という時は、庭やベランダのちょっとしたスペースで、とても手軽に水あそびを楽しめます。

*ほんの少しの水でも、水の事故は子どもの命に関わります。水あそびをしている間は、とにかくお子さんから目を離さないでください。



すなにもみずで
おえかき
してみよう！

水で広がるあそびの世界

水を入れたビニール袋に花びらを入れて、軽く揉むと色水に。



水があるだけで楽しい！

変幻自在に姿を変える水で、頭も心も成長

洗面所でいつまでも水を流し続ける子どもを見て、ついつい叱ってしまった、ということはありません。蛇口から流れる水にさわって形を変え、コップからあふれさせ、ためてはかき回し……、子どもは飽きることなく水であそぶもの。水は、身近でありながらも魅力的な存在なのです。子どもたちは見て、感じて、試して、をくり返し、水の扱いが上手になっていきます。頭もからだも心も総動員しているのです。



非認知能力を育てるあそびのレシピ

大豆生田啓友・大豆生田千夏

水ふうせんも年齢を問わず、子どもに人気のあそび。小さい子なら、持ってみるだけでも楽しめますし、大きい子なら楽しいふうせん合戦になります。割れた風船のゴミはすてましようね！